

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2691800078		
法人名	株式会社 ミストラルサービス (2F)		
事業所名	ミストラルとよさと		
所在地	京都府綾部市栗町土居ノ内31		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691800078-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691800078-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	平成26年3月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

対外的には施設近隣地域とのふれあいやつながりを大切にしています。運営推進会議を起点として委員の皆様との情報交換、地域行事(神社の祭りや納涼祭、運動会や文化祭等)への参加を積極的に行っています。入居者様はもちろんですがスタッフも「地域の一員であり、地域福祉の増進に貢献する」という思いを持って日々の業務に取り組むようにしています。内部においては開設2年目ということで「ミストラルとよさとらしさ」というものを確立しつつあります。例えば、霧困気であったり、ご家族様との関わり、入居者様同士の絆など少しずつではありますが深まってきています。「この方と出会えて良かった。一期一会を大切にしよう」という思いをこの施設に関わる全ての人々が持てるようにしたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

株式会社 ミストラルサービスは平成10年より地域に密着した各種の介護事業を展開し、平成24年4月、認知症対応型のグループホームとデイを開設しています。会社の経営理念に沿って「ひとりひとりを大切に『わ』のある暮らしを…」を事業所の理念としています。『わ』とは 和＝なごみ・輪＝人のつながり・地域とのつながり・利用者、家族、職員との輪・笑＝笑顔 を大切にしたい思いを込めて、職員の発案から策定しています。内部年間教育は書面研修資料を読解し、教育実施報告書を提出する仕組みで、文章力・記録力の高まりを意図しています。ケース記録上に介護計画を見易くし、計画に対し課題番号で記録したり、認知症の症状を色分けで表現する等、知恵を出して工夫しています。また災害時の2次的な避難場所として手を挙げたり、地域に向向って認知症の人への関わり方を寸劇で伝えたり、近所の火事では炊き出しや、高齢者1人を1晩預かったり、昨年の18号台風時は虚弱高齢者3名を預かったり、積極的に地域に溶け込もうとする姿勢を強く持ち、事業所の存在感を深めています。家族に利用者の様子を伝える「わきあいあい」、豊里地区向けに利用者の様子や事業所をPRする「笑顔が大好き」、職員に新情報や家族からの感謝の声、知っ得情報の「笑顔と感謝」等の広報紙には、小さな写真をカラフルにして印象付ける工夫をして作成する等、2年目にして大変成果を出している事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社経営理念「やさしい街づくりへの貢献」、事業所理念「“わ”のある暮らしを」に沿って和みや笑い、地域との輪を大切に日々取り組んでいる。逆にそれらの取り組みの根源は理念にあることもスタッフには意識させるようにしている	経営理念と共に、職員の発案で作上げた事業所の理念を遂行する為に、名札の裏に明記し常に意識して、サービスの提供に努めている。地域密着型事業所としての使命である「利用者・地域・職員の繋がり」を大切に考え、やさしい言葉と笑を旨として実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「施設に入ったからこれまでのつながりがとぎれる」のではなく「施設に入ったから多くのつながりができた」を目指して、積極的に地域行事へ参加している(春:神社のお祭り、夏:納涼祭、秋:文化祭や運動会、冬は控えている)また隣のデイサービスへ来所された知り合いとも交流できるよう行き来している	運営推進会議から地域の恒例行事や情報を得て、積極的に祭や文化祭・運動会等に参加し、地域とのつながりを支援している。老人クラブや女性グループ等から依頼を受け、職員が「認知症の人への関わり方の良い例・悪い例」を寸劇で演じ、地域に貢献をしている。近所の火災時に炊き出しを手伝い、一晩老人を預かり、地域に事業所の存在の意味を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年々ゲストとして地域の学習会や飛び込みの介護相談が増えてきている。また近隣に位置する「地域包括支援センター」とも協働しながらケースに関わることも多い		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している中で入居者の心身の状況や行事報告、ヒヤリハットや事故(クレーム)についても報告をして意見を求めている。時には委員様より参考意見を頂戴し、実践に活かしている	会議には、行政・栗上地区、豊里地区の自治会長・地区民生委員・包括支援センター・家族代表・管理者等が参加し、認知症デイサービスと合同で開催している。会議では運営状況と現状・地域行事への参加と振り返り・事故・ヒヤリハット等を報告し、行事情報も得てサービスに反映している。開設2年目を迎え、事業所の1年を振り返りスライドで報告し、理解を得ている。	議事録からは意見交換や課題の検討が見え難く思われる。課題を提供し意見交換の結果、決定事項や検討事項を確認し、次回の会議では決定事項を実施した経過報告や検討事項に対する職員の意見を会議に伝える等、推進会議が継続的に繋がって運営される様期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢者介護課より1名は運営推進会議の委員として施設の運営に携わって頂いている。市役所からもメールにて府からの情報や研修会情報が入ってくる。今年度より市が主催する「もの忘れ相談」にも参加させて頂いている	市役所から運営推進会議への出席があり、事業所の実情を理解して貰っているので、相談し易い関係が出来ている。市役所から府が発信している感染症情報や事故に関わる注意情報のメール配信もある。市主催の「もの忘れ相談」を分担し地域貢献を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づいて理解はしている。玄関の施錠については1Fのデイサービスもあり、ボタンで空く自動ドアにしている。研修については社内研修(書面)にて実施している	身体拘束をしないケアを表明し、これに伴う研修は年度の教育実施計画で取り組んでいる。研修方法は書面研修とし、全職員が「教育実施報告書」を提出している。「命・安全」を第一と考え、「一人にしない・必ず付き添う」ことを念頭に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が「高齢者虐待対応研修」に参加し、職員へ伝達講習を実施し理解を深めた。その他、社内研修(書面)も実施しながら防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者には制度を利用されている方がなく、今一つ実感がないのが現状。施設長が市主催の研修を受講して伝達講習する程度にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書に加えて、契約を締結している。時間をかけて説明し同意を得ている。その際には施設に足を運んで頂き、館内の案内や料金システムの説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、利用者アンケートを実施し、その結果を現場にフィードバックし運営に反映している。またご家族あてに出している施設便りにも要望等の欄を設けている。今年度はご家族の面会来所事に積極的に最近の様子を伝え、要望などを聴くように意思統一を図った	アンケートは回答数が少なく意図した結果が得られなかったので、検討している。家族は“お世話になっている”との思いから、言い出せないのでは？と察している。今年は家族の面会時を、家族の思いや意向を積極的に聞く機会とし、この垣根を超えようと思意統一を図り、丁寧な問い掛けを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は自己評価シートによって現状を振り返り、上長が確認、アドバイスを行っている。代表者や施設長、管理者から職員に向けて積極的に声をかけて不安や意見を聴くようにしている	全職員は自己評価シートによって振り返り、評価をしている。これを基に長上からのアドバイスや励ましを受けたり、意見や思いも伝えている。認知症状の変化と1日の様子を「不穏＝ピンク・徘徊＝イエロー・睡眠＝ブルー」で表示し、便の量も「片手・両手」で表現する等、職員のアイデアを反映させている。医師からも“適切な表現で解り易い”と賞賛を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回は代表者による職員面談の機会があり、個々に話している。直接言い難いことは施設長や管理者が耳を傾けるよう努めている。やりがいや向上心については「仕事の意義や施設の存在価値」などを訴え、前向きに仕事に取り組めるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者もしくは施設長が実際に現場へ足を運び、管理者からのヒヤリングや現場での様子を見てアドバイスを行っている。施設長及び管理者が現場にて介護技術やコミュニケーションのとり方など指導、相談に応じている		

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の3つのグループホーム(別法人)と良好な関係にあり、実際に足を運んだり、電話にて情報交換を行っている。書式や対応について伺うことが多い		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談に必ずご本人と出会い、情報収集をするようにしている。入居初日も主には面談を行った管理者や計画作成担当者がそばについて不安を取り除くようにしている。自宅での様子や趣味などこれまでの経歴を大切にしながら関わるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず施設に足を運んでもらい見学及び概要説明を行っている。その中で要望など確認しながら準備を整えている。入居当初はご本人も不安なため、ご家屋に連絡をとることが多い。密な連絡を取り合う中で信頼関係を高地している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談の中から必要とされていることを確認してミーティングや申し送りの中で話し合いながら支援にあたっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を支援するという視点と共に過ごす生活者という視点の両方をもって関係作りをしている。いつでも「逆の立場だったらどうか?」という思いをもつようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当施設はご家族へ呼びかけもしているが面会に来所される頻度が高く、その度に最近のご様子を伝えるようにしている。ご家族との外出や外食などしやすい雰囲気も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同一敷地にあるデイサービスより友人や兄弟が面会し合えるようにしている。時間は13:00から14:00と決めているがお互いにとって良い交流となっている。ご本人の希望があれば自宅近所の方や地元のお祭にも参加できるように配慮している	同じ建物の1階にある認知症デイサービスを利用する友人や兄弟と出合っ交流が出来る様に、時間を決めて支援している。住み馴れた地域の祭に行きたい思いが組み取れた時は、思いを叶える様な支援もしている。	大切な友達や行きつけの美容院・行き馴れていた場所等も把握して、馴染みの関係の継続支援にも取り組まれては如何でしょう。

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やホールでの過ごし方など職員が工夫しながら臨機応変に対応している。利用者同士もそれぞれに関係を構築され、そのバランスを観察しながら、介入している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1名ご本人の希望で自宅に戻られたが介護者の方(夫や息子)とは必要に応じて連絡をとり、相談にも応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	刻々と心身の状況が変化する中で出来る限り本人本位の生活が支えられるよう支援している。それは暮らしの中で無理強ひすることなく、自由に過ごしてもらえるよう見守りを中心に側面から支援する事と捉えている	農業をして来た利用者が多く、敷地内の畑で夏野菜を植えて、成長を楽しみに世話をしている。収穫したトマトやキュウリは食卓に乗せている。日々自由に過ごして貰う中で、行動・表情・仕草等から、その人の思いを汲み取る様に心掛け、見守りながら思いに添う様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中で以前の様子や職業、どのような暮らしをされていたのかを伺うことができる。そこからその人らしさを捉え、過去を把握するようにしている。不確かな部分はご家族やケアマネジャーに確認することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主には「バイタル(血圧・脈拍・体温)」「食事摂取量」「水分摂取量」「排泄状況」などから心身の状態の把握に努めている。出来ることは自分でしてもらう姿勢が基本ではあるが日々状況が変化するのも常なので勤務交代の際にしっかり申し送りを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主には職員の意見を基に計画作成は行っている。心身の状態の変化に応じて変更している。振り返りはフロア会議にて職員の意見を収集し、情報の共有に努めている	利用者をより深く把握出来るので担当制を用いている。フェイスシートに利用者や家族の意向を聞き取り、アセスメントしている。医療情報も得てこれを下にカンファレンスして、介護計画専門員が介護計画を立てている。入居時は1カ月間の状況から再度モニタリングし、更に現状に即した介護計画に繋いでいる。3カ月毎・緊急時に見直している。ケース会議は毎週1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙に日々の状況を記入し、毎回の申し送りにて伝達している。今年の部署目標が「記録の充実」となっており書式などもわかり易い書式に変更している		

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々のニーズ(買物へ行きたい、家族と話したい)に合わせて調整をしながら気持ちを満たせるように努めている。認知症の特性もあり、その都度の適切な対応がとても重要であることが理解できてきている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に地域の行事に参加することにより「生活の現実味」や「ここに居てもいいんだ」という気持ちになってもらっている。地域資源としてはこれまでの友人などの来訪がとても支えになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医があり、定期的に医療とのつながりを持っている。基本的には受診はご家族に依頼しているが緊急時などは施設で対応し、ご家族に報告を入れている。3つの医療機関(医師)が施設に毎月往診に来て下さるので大変助かっている	かかりつけ医の受診は家族が同行し、家族から結果を聞いている。緊急時や家族の事情によっては事業所が対応して、結果を家族に伝えている。協力病院2か所(公立・開業医)からの定期的な往診と歯科医の訪問治療も受けられる支援をしている。近くの開業医からは、24時間対応を受け入れて頂き安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロアごとに非常勤ではあるが看護師が配置され、現場の介護員からの相談に応じている。総体的にみるといつもと様子が違う場合はご家族と相談の上で医療機関に受診することが多い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面や電話またはこちらから足を運び施設での様子や経緯を伝えている。入院後も様子を伺いに病院へ行ったり、ご家族と連絡を取り合いながら、関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	内部疾患などで身体機能が低下された場合、変化が生じた段階でご家族と相談しながら以後の対応について方向性を定めている。その際の説明には管理者に加え施設長も同席して双方納得のもとで支援にあたっている。また職員はターミナルケアの学習会をもち対応について共有している	「重度化対応・看取り介護について」の指針を明記し、入所契約時に説明をしている。利用者の状況に変化が生じた時点で、家族・施設長・管理者等で話し合い事業所に出来る事を説明し、双方の了解のもとで支援している。職員はターミナルケアの学習会をもって共有している。終末は殆ど病院に入院されるので、最後の看取りは体験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応(誤嚥や急変時)については社内研修を実施している。緊急時の連絡の順番や方法についても電話の前に貼り紙を張りわかり易いようにしている		

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度避難訓練(通報訓練・避難訓練)を行い、なるべく多くの職員が参加するようにしている。近隣の住民へは緊急時にはかけつけてもらえるようお声かけはしている。万が一に備えAEDや備蓄品も用意はしている	消防署立ち会いの下、夜間を想定した火災の避難訓練・通報訓練(消防機器点検を含む)を1回と、自主避難訓練を1回行っている。AEDや備蓄も用意しているの で、事業所自らが手を挙げて、風水害時の二次的な避難場所として(広域避難場所は3Km離れた中学校)地域還元の一助を担っている。非常災害時の対応研修は毎年行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが一人ひとりに合わせた声かけを行っている。全体(ホール)での声かけと居室で1対1で話をする時と場面に応じて対応している。いつでも自尊心は尊重しており、笑顔が出やすいように心がけている	職員は利用者を人生の大先輩として尊敬の思いを持って、一人ひとりの思いや場面に応じた支援に日々取り組んでいる。排泄介助時の声掛けの仕方や入浴時の羞恥心への配慮等プライドやプライバシーを傷付けない様、言葉遣いにも留意して全職員が対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に「ご本人の家」という概念から自由に過ごしてもらえように強制しない側面からの支援を心掛けている。入浴や食事などもその日の体調や気分があるのでご本人の意思を尊重しながら対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員にとっては「働く場」であるが入居者にとっては「生活の場」であるを理解した上で常にご本人のペースで過ごして頂いている。どのように過ごしたいか?伺える方には確認しながら意思を尊重している。一律に考えないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや買物など希望に応じて外出したり、季節に応じた衣類をご家族に連絡して自宅から運んでもらったりしている。化粧など身だしなみについてはご本人に任せている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(テーブル拭き、盛り付けや配膳など)や後片付け(下膳や食器洗浄等)を一緒に行い、ご本人の気持ちを支援している。食事中は和やかな雰囲気の中で食べられるよう職員は雰囲気づくりに努めている(和やかな雰囲気)	献立は利用者の嗜好を把握しながら管理栄養士が立てている。食事は厨房で調理して運ばれ、炊飯と温めを職員が行っている。利用者は職員と共に下膳や食器洗いを笑顔で自らの役割の様に 行っている。たこ焼きや焼きそば等も一緒に作る事を楽しんでしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回記録して比較できるようにしている。加えて水分摂取量も同一用紙に記入して1日トータルで確認できるようにしている。それに応じて量をコントロールしている		

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には緑茶でうがいをし、就寝前に義歯の洗浄及び口腔ケアを行っている。出来る方は自分で頂き、支援の必要な方は職員と一緒にやっている。麻痺のある方は毎食後、必ず口腔ケアを行い、清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日の体調にもよるが概ね排泄パターンは職員が把握しておりトイレでの排泄や自立を支援している。ただ尿パッドについてはトイレに流される恐れがあるため、職員が確認するようにしている	トイレでの排泄を目指して支援している。個々人の排泄パターンを把握し、適宜、声掛けや誘導をして、失敗の無い様に配慮している。この様な配慮から尿臭が無くなったケースがある。現在はリハビリパンツにパットを用いている利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に1日おきにバナナを食べてもらい、野菜を多く取り入れた献立にしている。排便のコントロールが困難な方については医師と相談して服薬にて調整している。水分の摂取にも気を使っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的にはお1人ずつで1日おきの入浴としているが希望があれば毎日でも入って頂いている。人数が少ないため、せかさず、ご本人のペースに合わせて衣類の脱着など支援している	一日ごとの入浴としているが、好みによって午前・午後や、その日の体調及び気分も考慮している。男性職員は少ないが、出来るだけ同性介助に配慮している。入浴を嫌がったり、理解出来ない利用者には席を立て頂くきっかけを工夫し支援している。菖蒲湯やゆず湯等の季節湯や香の良い入浴剤等も楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のタイミングで就寝して頂いている。日中もこれまでの生活習慣もあるので自由に休息をとって頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には薬の効能が確認できる説明書を受取り、職員は書面にてその都度確認している。服薬後、症状に変化が見られた場合は速やかに主治医に連絡をとり、指示を受けるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中には以前ヘルパーの仕事がされており、他の入居者のお手伝いを自分の役割としている方もいる。女性が多い為、食事の支度や洗濯物、時には掃除など少しの支援や声かけがあれば一生懸命されている		

京都府 綾部市 グループホーム ミストラルとよさと (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば外出して買物など行っている。ご家族の意向にて外食や外泊もされている。地域の協力が得られるのは行事(夏祭りや文化祭)の際で快く受け入れて下さり、季節によっては自宅の畑で採れた野菜等を頂くこともある	日頃から事業所の敷地内や近所を散歩して外気浴をしている。郵便局に手紙を出しに行ったり、農協にはオヤツや衣類の販売もあり、見に行くのが楽しみとなっている。お花見・紫陽花・紅葉等のドライブにも出かけて楽しい時間を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際にはご本人自らが財布から支払いをされることが多い。職員は見守りを中心に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話を楽しみにされている方が多いので希望があればかけて頂いている。手紙についてもまめに下さるご家族があり、ご本人にとっての楽しみの1つとなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃は欠かさず、トイレなどもきれいにしている。季節感が出るようにその季節に応じた絵を描いたり、作品を作ってフロアの壁を彩っている。空気清浄機や加湿器も導入して健康管理にも注意している。ところどころに椅子やソファを設置して座れる環境にしている	リビングから見える山並みや広い田園風景は、居ながらにして自然の移ろいを感じられる。両側に大きい窓があるリビングは明るく、十分な広さがある。カレンダーや時計は利用者が見易い位置に工夫されている。浴室やトイレは車椅子が操作出来る十分な広さがあり、清潔に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	概ね自分の居心地の良い場所が決まっている様子。隣に座る人や気の合う関係も自然な形で形成され職員も付かず離れずの距離を大切にしている。独りになりたい時は居室にいかれたり、自ら席を離れるのでその意思を尊重するようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由としており、各々の居室によって異なっている。ご家族の写真や思い出の品などが飾ってある	南向きの居室から見える山並みと田園風景は、郷愁と癒しの景色である。腰高の大きい窓からは陽が差して明るく適度の広さがある。持ち込みも出来るが、介護用ベッド・和・洋タンス等事業所からの有償レンタルもある。家族写真や家族の心の籠った手作りの置物等を飾り、落ち着いた生活が出来る様に工夫している。自室に名前を好まない方にはお花の絵を貼るなど工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前にはわかり易く貼り紙をし、排泄の自立を助長している。バリアフリーな床に加えて廊下にも手すりが付いており安全面に配慮している		